

三重県保健医療計画(第5次改訂)評価表 【小児救急を含む小児医療対策】

目標項目	策定時の数値	数値目標	目標達成までの時期	評価体制	1年後	2年後	3年後	4年後 【現状値】	5年後	最終評価
幼児死亡率(人口10万人あたり()内は全国平均)	33.5 (27.6)	全国平均以下	5年後	三重県医療審議会健やか親子推進部会	30.3 (20.9)	19.4 (18.6)	17.8 (19.3)	15.6 (19.4)	—	—
小児科医師数(人口10万人あたり()内は実数)	10.8人 (200人)	12.4人以上 (229人)	5年後	三重県医療審議会健やか親子推進部会	10.7人 (197人)	10.7人 (197人)	11.5人 (209人)	11.5人 (209人)	—	—
救急搬送数(乳幼児の軽症者)	2,017件	2,017件 以下	5年後	三重県医療審議会健やか親子推進部会	2,190件	1,924件	1,768件	1,768件 (速報値)	—	—
小児傷病者救急搬送時の現場滞在時間 (現場滞在時間が45分以上の割合)	0.40%	現状維持	5年後	三重県医療審議会健やか親子推進部会	0.38%	0.51%	0.42%	0.44%	—	—
小児の訪問診療実施機関数	7施設	14施設	5年後	三重県医療審議会健やか親子推進部会	0施設	※ (H25)	8施設		—	—

※厚労省から数値の提供なし

取組方向	これまでの取組実績	次年度の取組内容
取組方向1 小児医療を担う人材の育成・確保	○県では、平成24年5月に三重県地域医療支援センターを設置し、修学資金貸与者等の若手医師が、地域の医療機関をローテーションしながら専門医資格を取得できる三重専門医研修プログラム(小児科を含む)を、三重大学及び各病院と協力のうえ作成するとともに、修学資金貸与者等にプログラムを利用してもらうよう個別面談等の実施に取り組みました。	○今後、県内医療機関で勤務を開始する修学資金貸与者等が段階的に増加することが見込まれることから、これらの若手医師が、地域医療支援センターの三重専門医研修プログラム(小児科を含む)を活用し、県内定着と医師不足病院の医師確保支援につながるよう、周知・勧誘を進めるとともに、初期研修医の定着支援や子育て医師等復帰支援等の環境整備に取り組みます。
取組方向2 地域差のない小児医療提供体制の充実	○休日・夜間の小児救急医療体制の整備に向けて、輪番病院等における小児科医の確保に必要な経費を補助しました。	○休日・夜間の小児救急医療体制の整備に向けて、引き続き輪番病院等における小児科医の確保に必要な経費を補助します。
取組方向3 小児医療に関する情報提供の充実	○三重県救急医療情報センターにおいて、コールセンターの電話案内やインターネットの「医療ネットみえ」より、受診可能な医療機関の案内等、初期救急医療の情報提供を行いました。また、関係機関と連携し、時間外診療が可能な医療機関の「医療ネットみえ」への参加促進に取り組みました。 電話案内件数(小児科) H28:8,845 H28,12現在 (参考 H27:13,798件、H26:14,098件) インターネットアクセス件数(全診療科) H28:204,035件 H28,12現在 (参考 H27:264,919件、H26:209,599件) 参加医療機関数 H28:653機関 H28,12現在 (参考 H27:651機関、H26:634機関) ○子どもの病気、薬、事故に関する相談に医療関係の専門相談員が電話で対応する「みえ子ども医療ダイヤル(#8000)」により電話相談を行いました。 ○平成26年度から、相談時間帯を準夜帯(19:30~23:30)だけでなく深夜帯(23:30から翌8:00)まで延長し、毎日19:30から翌8:00まで電話相談を行っています。 H28:8,185件 H28,12現在 (参考 H27:9,914件、H26:8,802件)	○引き続き「医療ネットみえ」により受診可能な医療機関の情報提供を行います。また、関係機関と連携し、時間外診療が可能な医療機関の「医療ネットみえ」への参加促進に取り組みます。 ○夜間・休日の小児救急における「みえ子ども医療ダイヤル(#8000)」が持つ役割と意義を広く県民に周知します。また、引き続き毎日19:30から翌8:00までの運用を行います。
取組方向4 療養・養育支援体制の充実	○三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンターと連携し、県内関係者を対象に小児在宅医療の普及・啓発、人材育成に取り組みました。(平成25年度、平成26年度、平成27年度、平成28年度) ○三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンターが実施する医療的ケアを必要とする重症児のレスパイト・短期入所事業機能の拡充に対して支援を行いました(平成27年度、平成28年度) ○市町における小児在宅医療の取組を推進するため、新たに補助事業を創設し市町の取組を支援しました(桑名市、鈴鹿市)。また、他地域での取組を促進するための働きかけを行いました。(平成27年度、平成28年度) ○愛知・岐阜・三重の東海三県が合同で東海三県小児在宅医療研究会を開催しました。(平成26年度、平成27年度、平成28年度(予定)) ○国の小児等在宅医療連携拠点事業の採択を受け、これまでの県内全域への小児在宅医療の普及・啓発に加え、桑名地区、鈴鹿地区をモデル地区とし、小児在宅関係者による会議を開催し、顔の見える関係づくりを行いました。(平成25年度、平成26年度) ○「医療を必要とする子どもが在宅でより良く過ごすために」というテーマで三重県小児等在宅医療連携拠点事業シンポジウムを開催しました。(平成26年度) ○「県立草の実りハビリテーションセンター」では、肢体不自由児に関する巡回療育相談など、地域の療育支援に取り組みました。また、「県立小児心療センターあすなろ学園」では、子どもの心の診療拠点病院として、対象児へのケアのほか、市町や関係機関等への専門的な支援や人材育成支援に取り組みました。 ○三重県立子ども心身発達医療センターの開設(平成29年6月予定)に向けて建築工事を実施するとともに、国立病院機構三重病院との運営面等での連携検討や、三重大学をはじめ関係機関との協議を行い、開設に向けた準備を行いました。	○(継続)三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンターが実施する地域における医療と福祉の連携体制の整備や小児在宅支援に関わる資源開発、レスパイト・短期入所事業の機能拡充、訪問教育を受ける重症児に対する医療の提供等の取組を支援します。 ○(継続)平成27年度に創設した小児在宅医療の補助事業等により、小児在宅医療に取り組んでいる市町等を支援するとともに他地域への働きかけを行います。 ○三重県立子ども心身発達医療センターを平成29年6月に開設する予定です。隣接する国立病院機構三重病院や併設の県立かがやき特別支援学校との連携により、医療・福祉・教育が連携した専門性の高い医療・福祉サービスを提供します。 ○三重県立子ども心身発達医療センターにおいて、これまで県立草の実りハビリテーションセンター及び県立小児心療センターあすなろ学園、県児童相談センターの難聴児支援部門で取り組んできた取組を継続し、さらなる充実を図ることにより、地域支援機能を高め、県全体の総合力の向上を図ります。